

歩行中事故 7歳最多

新1年生 行動範囲広がる時期

県内で歩行中に交通事故に遭った人を年齢別にみると、7歳児が一番多いことが、県警への取材でわかった。今年3月には、白井市の男児(7)が、小学校前の横断歩道を横断中に軽乗用車にはねられて亡くなる事故も発生。県警は「7歳は小学校に入學し、行動範囲が広がる時期。大人の目が届きにくく、事故に巻き込まれやすいのでは」とみている。

県警によると、今年1月～11月末現在に県内で歩行中に交通事故で死傷した

2638人を年齢別に分けると、7歳が63人で最も多かった。続いて49歳(53人)、69歳(47人)、9歳と47歳(46人)、8歳(45人)だった。2013年～17年の5年間のうち、4年間が7歳の死傷者が最多だった。男女別では、13年～今年11月末に死傷した7歳児472人のうち、312人

(66・1%)が男子だった。時間帯別では午後3時台が124人(26・2%)と最多で、午前7時台が83人(17・5%)、午後4時台が76人(16・1%)だった。登下校時に事故に巻き込まれるケースが多いとみられる。

場所別では、道路を横断中の事故がほとんどを占めた。最も多かったのは、横断歩道以外の道を横断中の事故(41・9%)で、次いで横断歩道を横断中の事故(31・5%)だった。県警は「道路を渡る際は、必ず左右をよく見て安全を確認するよう、家庭でも指導してほしい」と話している。

■県内で歩行中に交通事故で死傷した人数(年齢別)

	2013年	14	15	16	17
1位	7歳 (112人)	7歳 (74人)	8歳 (74人)	7歳 (75人)	7歳 (77人)
2位	8歳 (81人)	66歳 (70人)	7歳 (71人)	75歳 (64人)	73歳 (59人)
3位	64歳 (69人)	8歳 (64人)	68、79歳 (56人)	67歳 (55人)	8歳 (55人)
4位	6歳 (64人)	71歳 (63人)	73歳 (54人)	6歳 (53人)	9歳 (51人)
5位	66歳 (62人)	77歳 (59人)	6歳 (53人)	8歳 (51人)	49、76歳 (50人)

■子どもを交通事故から守るために

- ◆信号や横断歩道など、交通ルールを定期的に教える
- ◆道路を渡るときは、左右を確認し、手を上げて渡る
- ◆家族で通学路や自宅の近くを歩き、危険な場所を一緒に確認する

(県警による)

子ども向けちらし・交通安全教室

7歳を中心に歩行中の事故が多いことを受け、県も対策に乗り出した。道路を歩くとき、渡るときの三つの注意点を書いたちらし「思いやり交通ちば～2018こども版」を約7万7千部作り、今年度から国立・私立を含む県内の全ての小学1年生約5万2千人に配布。来年度も作成し、新1年生に配る予定だ。

また、市川市の市立幼稚園と習志野市の市立保育園各1園をモデル園に指定し、県警と連携して春・秋と卒園前の来年2月

の3回に分け、1回目は信号機のある横断歩道を、2回目は信号機がない横断歩道でも車に注意しながら渡るなど、子どもの成長に合わせ、体験を交えた交通安全教室を繰り返して実施。保護者を対象にした交通安全教室も実施した。

あるモデル園では「年少の子どもにも」との要望を受けて2回目の交通安全教室では対象を広げて実施したといい、来年度はモデル園を増やすことも検討しているという。(寺崎省子)

交通安全総合分析センター(東京)によると、全国的にも交通事故の死傷者は7歳が多い傾向にあるという。同センターの小菅英恵さん(40)は、「小学校低学年の児童は、注意力が未発達で、予測のつかない行動をしやすい。ドライバーは、子どもの近くを通るときは、徐行をするなど特に注意してほしい」と話している。

(松島研人)